

FUKUSHIMA NEXT

私たちは過去と未来の接点に生きている。

福島県双葉町の中野地区復興産業拠点に位置する

「東日本大震災・原子力災害伝承館」。

文字通り、福島が経験した震災、津波、

原子力災害という未曾有の複合災害の記録と記憶、

教訓を後世に伝えるための施設です。

昨年の4月から伝承館スタッフとしてあらたに加わった、

いわき市出身の遠藤さんと、南相馬市出身の渡邊さん。

ともに現在19歳、震災当時は小学3年生でした。

就職の動機について、お二人が異口同音に語ってくれたのは

「福島を、その被災の経験を、

自分自身で語り継いでいきたい」ということ。

そのために「伝承館で伝えられること、

伝えていくべきことについて、もっと勉強していきたい」。

「震災を決して風化させてはならない」と語るお二人ですが、

たいせつなものは、過去の記憶だけではなく、

これからの福島への思い。

「もちろん震災はとても辛い出来事でしたが、

福島を考えるきっかけになりました」と渡邊さん。

「福島には温かい心、人と人との結びつき、

乗り越える力があります」。

それが次の福島につながることも。

「食べ物に関わる風評被害などを目の当たりにすると、

「福島についてもっと発信しなければ」

との思いが強まります」と遠藤さん。

「福島はもともと豊かな自然の土地。

その自然に恵まれた環境を新しい福島のきっかけにできないか」

という具体的なアイディアも。

「復興はまだ半ば。

ただその変化の中において未来を共にできることは幸せ」。

「福島といえば、今もなお「地震のあったところ」

との見方をされる。そうじゃない福島を見せたい」。

そんなお二人の言葉の中には、

新しい福島への歩みを

進める強い意志がありました。

福島、その先の環境へ。

震災から10年が経過しました。

福島の復興はまだ道半ばです。

環境省は引き続き除染をはじめとする

環境再生事業を安全かつ

着実に進めていくとともに、

福島県内の除染で生じた土壌等を

県外で最終処分するという

約束の実現に向け、

減容・再生利用の必要性・安全性等に関する

全国での理解醸成活動を

改めて強化していきます。

同時に、再生可能エネルギーの促進など

脱炭素まらづくりの取組や、

「ふくしまグリーン復興構想」の推進など、

復興に向けた未来志向の環境施策を

福島県と連携して取り組んでいます。

東日本大震災・原子力災害のあった福島で

「その先の環境」を目指す思いと行動、

「FUKUSHIMA NEXT」は

もう始まっています。

環境省では、

この「FUKUSHIMA NEXT」広告や

活動を通じて、福島の未来に向けて

チャレンジしている方を応援してまいります。

福島、その先の環境へ。
環境省



遠藤さん

渡邊さん

“FUKUSHIMA NEXT”に登場していただける方を募集いたします。

詳細はこちらから

[福島、その先の環境へ。](#)

[検索](#)

